赤い部屋

緒方 零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
赤い部屋

【Ｎコード】
Ｎ３５０４Ｆ

【作者名】
緒方　零

【あらすじ】
大学の裏にある廃病院は妙な噂がたっていた。そこには幽霊が写る場所があると知り、そこに行ってみるが・・・？

私は友達から妙な噂を聞いた。
私が通っている大学の裏にある病院、皆は廃病院と呼ぶ。
２０年前に廃墟になったらしい。

もともと大学が建っていた裏に建設したらしくて、人目につかず静かに廃墟になった。
医師が下手で何回も術死していると言う噂もあった。

「ここが廃病院か・・・」

何年も人が来てないからか、壁には蔦が張っている。
所々の壁にもヒビが入っていて叩いたら壊れそう。

早速、中に入ってみた。中は埃が積もっていて歩くだけで埃が舞う。
昼間なのに中は薄暗い。壁は思ったより厚く出来てるみたいだ。

パキッ

下を見るとガラスの破片がいっぱい。
ガラスが割れてる？
窓ガラスはすべて黒のベニヤ板で覆われている。

「うっ、堅っ！」

なんとか、ベニヤ板を外し、ほかるとガッシャンと音を立てて割れた。
誰かの悪戯で板を付けたみたいだ。窓と板の大きさが疎らになっている。

「この窓からは大学が見えるんだ。眺めは最高なのに、廃墟なんだよね・・・」

次に階段を上った。
２階も窓は覆われていて霊安室や手術室などがメインらしい。
ここは“幽霊”が出る、そう思った。

「え、なにこれ・・・。血・・・？」

白い壁に付いている赤いもの。でも、血にしては赤すぎる。
誰かの悪戯みたいだ、ペンキだろう。
ビックリしたのは血だけではない。ペンキなのにその下、つまり床に植木鉢に砂が入っていて線香の燃えカスが置いてある。

「悪戯にしてはこってるなぁ」

さらに廊下を進むと不自然に開いている扉。中は真っ暗だった。
扉を開けてみた。

「・・・・・。嘘・・・・」

ここは霊安室だった。しかも、壁一面が真っ赤に染まっている。
見て言葉を失った。
不自然に染まっているのだから。誰かが引っかいたように線になって真っ赤になっている。

「誰かが引っかいたのかな？これ私以外が見てたら絶対、気絶してるわ」

それから霊安室を出た。
さっきみたいに不自然に扉を開けておいて。

バンッ

５０ｍほど歩いたところで大きな音がした。
この音はドアを思いっきり閉めた音と似てる。
まさかと思いさっきの霊安室へ走って戻ってみた。

「ありえない」

扉が閉まっていた。しかも、無理に閉めたのか壁にヒビが入っている。
その扉を開けようと手にかけ、引いたが一行に開かない。
仕方ないから霊安室を諦め、次の階に進むことにした。

「ここは病室ね・・・」

病室の一つ一つを調べたら、必ず血痕が残っている。
ペンキなんかじゃない。それに一人部屋が一番酷かった。
これが噂の赤い部屋なのか・・・？

とりあえず、写真を撮ることにした。
何枚か撮り、さっきの霊安室に向かうことにした。

さっきは開かなかったが次は、と思いドアノブに手をかけた。
今回はすんなり開いた。

「・・・・・・・」

さっきとは雰囲気が変わっている。
血の位置が変わっている。平行方向の壁に血が付いていたのに、今は上と下に血がどっぷり付いている。

「この霊安室が赤い部屋なの？」

ここで写真を撮ることにした。
しかし何回シャッターを押しても、フィルムが出てこない。

「・・・赤い部屋・・・」

ここの霊安室が赤い部屋だと悟った。
写真が撮れないなら帰ろうと廃病院を後にした。

廃病院を出た後、カメラが急に動き出し、さっき押した分のシャッターが動いた。

それに写っていたのは血塗れになった人間が数えられないほど、

写真にはい切らないほど写っていた。
すべての写真がまったく同じだった。
写真のすべての人間は手を伸ばし、見ている人に助けを求めているように見える。その手は今にも写真をすり抜けてきそうで気味が悪かった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3504f/

赤い部屋

2010年10月9日13時02分発行